

---

# GAME

金銀灰色

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

GAME

### 【Nコード】

N6428H

### 【作者名】

金銀灰色

### 【あらすじ】

私知ってるゲームの話。4人の子供と数字持ち。彼・彼女らのやったゲームの話。あの子のやったイタズラ。私の記述です。（金銀灰色作品）

## はじめに(前書き)

結構暗いかな？察しのいい人なら全部すぐに解っちゃってつまんな  
いだろうけど、よければどうぞ。

あと、更新かなーり遅いので。

## はじめに

4人の子供がいた。

いや、正確にはあと1人いたからあわせて5人。

4人の子供は、1人につき1つ、すてきな紋章を持っていたし、1人につき13人。王様もいれば、平民・奴隷もいる《階級違い》達…おなじ紋章を持つ者たちを持っていた。

残りの1人には紋章も持つてなかつたし、味方もいなかつたけれど、誰にも負けない力と自分がもうひとり、いた。

4人はどこまでも馬鹿で愚かな味方達でゲームをした。

味方を案ずることをする必要がないのを知っていたから。

4人の敵はあくまでお互いで、でも、味方達がそのことを知っていたかは定かじゃない。

それに4人がお互いのことをよくよく知っていたかも定かじゃないんだ。

ただ、…あの子、5人のうちの最後の1人は全てを知っていた。

…いや、分からない…けれど私にはそう思えてならないんだ。

そしてあの子は4人のゲームにいたずらをした。

神出鬼没。 問答無用にね。

あの子は誰の味方でもなく、敵でもなく。自由気ままに4人を助け、気が向くままに4人を陥れた。だから、4人はとてもあの子を恐れ、いたし、あの子が来て助けてくれるのを期待していた…。本当に都合のいいように…。

さあ、前置きはこれぐらいにしよう。

私はこれから4人の遊びのことをここに記していきます。

あの子と同じ第三者の目からみれば、このゲームがとても愚かである種の喜劇だということがきつと解ってもらえるだろうから。

子供達と紋章を持つ者たち

そうだな…名前をつけようか。

ハートの紋章を持つ小さい子をモモ。

ダイヤの紋章を持つ賢い人をシオン。

クラブの紋章を持つ綺麗で悲しい人をミツメ。

スペードの紋章を持つ運氣に見放された可哀そうな人…彼をサクラ。

紋章を持つ者たちはそのまま、紋章と生まれた順番に逆から打った数字を言うだけにしよう。

きりがないからね。

まあ、気が向いたら又、記していこうか。

あとは、あの子。

あの子はクロとシロって私たちは呼んでた。  
だからここでもそう呼ばせてもらう。

これぐらいでいいかな？

そうだ！ただ始めたんじゃないよ面白いよね。  
もし…これから記述を読んでくれる気があるんなら、私が誰かあて  
てみてほしい。

私もこの話の登場人物のひとり。  
ただの数字持ちかもしれないし、紋章を持つ子供の一人かもしれない。  
い。

…そしてあの子かもしれない、って言いたいけど、それはさすがに  
無理かな…。

あの子のことは知らないことが多いすぎる。

でもね、あの子はこういう謎ときが好きだった。  
それは、それだけは知ってるんだ…。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6428h/>

---

GAME

2010年10月9日03時55分発行